

「ランナーの力を最大限に」

～ 「あと 100 グラム」の挑戦 ～

アシックスのシューズは全て、神戸市にあるスポーツ工学研究所で開発されています。研究所は 1990 年に完成し約 90 人の研究員が働き、分析室以外にも化学や科学の

要素があらわれています。例えば、プラスチックの強度を調べるためにセ氏マイナス 30 度からプラス 85 度の環境をつくる気象室があったり、8 台並べたカメラの間を走り抜け、光の反応で足にかかる衝撃を調べる、世界でも屈指のシステムがあります。

スポーツ工学研究所での主な研究テーマ	
人間特性	運動時の負荷や変形を分析
材料	樹脂やゴムなどの材料を配合
構造	コンピューターで設計、実験による評価と検証
分析評価試験	基準値の設定、新たな評価方法の研究など
生産技術	量産するための技術指導

よくスポーツは「道具に頼らず実力で勝負」などと言われますがそれは過去のこと。現在は、「いかに実力を引き出す道具に出会えるか」がキーワードとなっています。

アシックスの代表的モデルの「KAYANO23」は片足約 330g。シューズが軽くなることで、足を前に振り出すエネルギーが軽減されることとなります。靴の素材は大きく分けて地面に触れるアウトソール（靴底）、衝撃を吸収するミッドソール（中底）、足を覆うアッパー（甲被）で構成されています。それぞれの素材を軽くしても、強さや弾力が失われてしまうと、靴として必要な機能の維持が難しくなります。改良を重ね、たどり着いた素材は伸びや縮みが少なく、引っ張り強度が強いオーガニック繊維。これをソール（底）素材に混ぜ、耐久性とクッション性を引き出しました。



これこそが 2016 年発売の旗艦モデルに搭載される軽量ミッドソール「フライトフォーム」なのです。このフライトフォーム搭載商品販売数はすでに 190 万足を超える人気ぶりです。

研究所では、さらに「誰にでも適合する靴を作りたい」と、様々なランナーの走り方から足が接地する際の足首の角度を分析し、代表的な 3 パターンを想定して開発を進めています。データの収集には製品購入者からの情報提供が欠かせないため、アシックスでは製品購入者から貴重なデータを提供してもらうためのアフターサービスの充実をより高めていきたいと考えています。